

法遍寺 から大切な 皆様へ

2020年1月1日

日蓮正宗 年間方針

御命題達成の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成と折伏実践

年間実践テーマ

①勤行・唱題で歡喜の実践

境涯開く唱題を

正しい姿勢で実践

②異体同心の折伏で

広布へ前進

僧俗和合

講中一結

③御講と登山の推進で

人材育成

罪障消滅

一生成仏

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2019年12月8日の御報恩御講の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

日蓮大聖人の忍難弘教のご一生は、一切の衆生を妙法によって救済せんとした仏様の誓願を基とします。法華経には八幡大菩薩を中心とする諸天善神が、「正直の人の頂きを栖(すみか)とし、諂曲(てんごく)の人の心には亭(やど)らない」ことが誓願されています。諂曲とはこびる・へつらうことをいいます。八幡等の諸天善神は、妙法を信受する善人の生命に内在して守護する用(はたらき)をなします。久遠本仏のご内証たる御本尊にまします諸天善神の一切が妙法に道交し、現実的な守護の力用を顕すのです。時の御法主上人のご内証から発せられるお言葉、それは「広宣流布」の一言に尽きます。これは妙法の弘通という御本仏の誓願でありご遺命なのです。自己を磨き、互いを磨きあい、折伏の渦を巻き起こしていきたいと願います。共に誓願達成のため奮起の行動を示しましょう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ

聖教新聞(平成4年10月8日)に「悪知識は『自分』が中心である。ゆえに、その時々によって、言動が違って来る」とありますが、これは学会自身の姿を言い当てています。破門当初、学会は「御本尊はなくてもよい」「信心の二字があればそれがすべて」「御本尊は我が胸中にある」と指導していましたが、平成5年になると一変し、御法主上人の許可・開眼もない「ニセ本尊」を作り、信徒への販売と取り替えという暴挙に移行したのです。日蓮正宗が大聖人の正嫡たる所以は、正しい相伝による本尊観にあります。教義を歪曲し、指導に一貫性のない学会は、大聖人が「諸宗は本尊にまどへり」との仰せにあたる邪教であることを自ら証明しているのです。功德の実証は日蓮正宗の信仰にあります。正しい指導・真実の幸福を得るため、法遍寺においでください。

③ 信仰する気持ちが起こらない人へ

世間の人たちは、何も信じない人など無く、親を信じ、友を信じ、雑多なる信の中で生きています。信じる対象も高低・大小・雑多であり、その対象によって、幸福も高低・大小などの結果を生じさせます。真実の仏法は支配されるものを思索させ、真実の生きる価値を教え、また自覚させてくれます。人によって宗教は心の問題で、生活とは別の世界であるという人もいますが、これは大きな間違いです。最高のものを信じ、生活の基盤となる修行をなすならば、因果の理法により、人生の価値や生きがいを得られ、人を幸せに導く人材となれるのです。生まれながらの不平等や、一生不幸の宿命に泣く人々の存在など、三世にわたる生命の因果を説き明かし、幸福の原理を説く教えが仏法です。法遍寺へおいでいただき仏法をご聴聞ください。